



【選択式問題】 令和 元年(第3回) 新規受験勉強会

令和 元年 5月 25日

1. 『神示』について書かれた文章である。正しいものに ○ を付けよ。
- () 神示は個々の五感によって得たものである。
 - () 神示は五感によって得たものではない。『神示』とは“本物に触れる”ことです。
 - () 『神示』とは「直接把握」ということです。私たちは、表現されたそのものを感じ取るのではなく、表現物を「媒介」にして本物を感じ取るのです。

『生長の家ってどんな教え?』 P90～94

2. 動植物は「神の子」ではないのかという質問に答えた文章である。正しいものに ○ を付けよ。
- () 人間は実相において「神の御徳をすべて備えている」という意味で神の子という。動植物も同じである。
 - () 動物や植物は、神の御徳の一部を体現している。
 - () 植物や動物が人間との最も大きな違いは、何かと言いますと、それは「自由」です。

『生長の家ってどんな教え?』 P86～89

3. 神想観について書かれた文章です。正しいものに ○ を付けよ。
- () 神想観は、「実相覚」によって真の自己を把握する
 - () 神想観は、神から谷口雅春先生だけに直接授かった行法で他は真似出来ない
 - () 神想観は、守護の神に護られて行なう完全確実な観法
 - () 神想観は、無念無想で行う。
 - () 神想観は、「念術」である。
 - () 神想観は、「凝念」(我執の念)でない—神想観は最も正しい意味に於ける精神統一法
 - () 神想観は、必ずしも精神統一を必要としない
 - () 神想観は、欲しいもの一心不乱に求めて心で祈る行。
 - () 神想観とは、自力の行
 - () 神想観とは、哀願ではない
 - () 神想観の祈りの極意は、ひたすら神に振向いていただくことである
 - () 「観る」ことは「祈る」ことである
 - () 神想観とは、現象をどこまでも見続けることである。
 - () 神想観は、身口意の三業をして神の相を現せしめる
 - () 神想観は、有念有想である

『詳説 神想観』 P21～56

4. 祈り合いの神想観について正しいものに ○ を付けよ
- () 祈り合いの神想観とは、いろいろ問題を持っておって、祈ってもらいたい人を前にし、その人(複数でも宜しい)と向かい合って座し、自身の幸福の爲に、祈る行である。

- () 自分のことは少しも思わず、ひたすら相手の幸福のために祈るところの「祈り合い神想観」は、最も神の御心に叶った神想観である。
- () この愛の心が神に通じて、神の救いの霊波が天降り、種々の奇跡的体験がこの祈り合いによって起こるのである。奇蹟を伴わない祈りは本当の祈りでない。

祈る側の人々の心構え

- () 相手の気持ちと同じ心になって、只力を込めて祈るのが大切である。
- () 唯実相を直視し感謝の心で既に完全円満の姿を觀じ見るのである。
- () 相手を癒すのは、強い気持ちで凝視し続けることが必要である。
- () 力まず、幼児の心をもって、ただ実相を觀ずる。

祈られる側の心構え

- () 懺悔と、切なる願望をもって祈る。
- () 信仰の宣言をすることが必要である。
- () 報恩、愛行の決意が出来れば良いが必ずしも必要ではない。
- () 吾、既に癒されたり、完全円満なりと信じて行動すること。

5. 浄心行について書かれた文章です。正しいものに ○ を付けよ

- () 浄心行というのは、ひと口で言うと、心の中にある怨みや、憎しみ、恐怖、不安、自分自身をとがめる心等の一切の気持ちを紙に書いて、聖經読誦のうちに、これを焼却する行であります。
- () 一切の環境・運命は自己の心とその周囲にいる人の想念を受けて展開するのであるため、周囲の人々の心も合わせて浄める必要がある。
- () 病気(人生一切の不幸の代名詞)というのは、こうした悪想念が病気という形にあらわれて消えてゆきつつある姿なのであるから、それを病気以外の形であらわせば、病気をあらわす必要がなく消えるのである。
- () 病気以外の形にあらわす一番よい方法は、その悪想念を思い出さないように、楽しいことばかりを考えておれば良いのである。

【選択式問題】**令和 元年(第3回) 新規受験勉強会 解答**

令和 元年 5月 25日

1. 『神示』について書かれた文章である。正しいものに ○ を付けよ。

() 神示は個々の五感によって得たものである。

(○) 神示は五感によって得たものではない。『神示』とは“本物に触れる”ことです。

(○) 『神示』とは「直接把握」ということです。私たちは、表現されたそのものを感じ取るのではなく、表現物を「媒介」にして本物を感じ取るのです。

『生長の家ってどんな教え?』P90～94

2. 動植物は「神の子」ではないのかという質問に答えた文章である。正しいものに

○ を付けよ。

() 人間は実相において「神の御徳をすべて備えている」という意味で神の子という。動植物も同じである。

(○) 動物や植物は、神の御徳の一部を体現している。

(○) 植物や動物が人間との最も大きな違いは、何かと言いますと、それは「自由」です。

『生長の家ってどんな教え?』P86～89

3. 神想観について書かれた文章です。正しいものに ○ を付けよ。

(○) 神想観は、「実相覚」によって真の自己を把握する

() 神想観は、神から谷口雅春先生だけに直接授かった行法で他は真似出来ない

(○) 神想観は、守護の神に護られて行なう完全確実な観法

() 神想観は、無念無想で行う。

() 神想観は、「念術」である。

(○) 神想観は、「凝念」(我執の念)でない—神想観は最も正しい意味に於ける精神統一法

(○) 神想観は、必ずしも精神統一を必要としない

() 神想観は、欲しいもの一心不乱に求めて心で祈る行。

() 神想観とは、自力の行

(○) 神想観とは、哀願ではない

() 神想観の祈りの極意は、ひたすら神に振向いていただくことである

(○) 「観る」ことは「祈る」ことである

() 神想観とは、現象をどこまでも見続けることである。

(○) 神想観は、身口意の三業をして神の相を現せしめる

(○) 神想観は、有念有想である

『詳説 神想観』P21～56

4. 祈り合いの神想観について正しいものに ○ を付けよ

() 祈り合いの神想観とは、いろいろ問題を持っておって、祈ってもらいたい人を前にし、その人(複数でも宜しい)と向かい合って座し、自身の幸福の爲に、祈る行である。

- (○) 自分のことは少しも思わず、ひたすら相手の幸福のために祈るところの「祈り合い神想観」は、最も神の御心に叶った神想観である。
- () この愛の心が神に通じて、神の救いの霊波が天降り、種々の奇跡的体験がこの祈り合いによって起こるのである。奇蹟を伴わない祈りは本当の祈りでない。

祈る側の人々の心構え

- () 相手の気持ちと同じ心になって、只力を込めて祈るのが大切である。
- (○) 唯実相を直視し感謝の心で既に完全円満の姿を観じ見るのである。
- () 相手を癒すのは、強い気持ちで凝視し続けることが必要である。
- (○) 力まず、幼児の心をもって、ただ実相を観ずる。

祈られる側の心構え

- (○) 懺悔と、切なる願望をもって祈る。
- (○) 信仰の宣言をすることが必要である。
- () 報恩、愛行の決意が出来れば良いが必ずしも必要ではない。
- (○) 吾、既に癒されたり、完全円満なりと信じて行動すること。

5. 浄心行について書かれた文章です。正しいものに ○ を付けよ

- (○) 浄心行というのは、ひと口で言うと、心の中にある怨みや、憎しみ、恐怖、不安、自分自身をとがめる心等の一切の気持ちを紙に書いて、聖經読誦のうちに、これを焼却する行であります。
- () 一切の環境・運命は自己の心とその周囲にいる人の想念を受けて展開するのであるため、周囲の人々の心も合わせて浄める必要がある。
- (○) 病気(人生一切の不幸の代名詞)というのは、こうした悪想念が病気という形にあらわれて消えてゆきつつある姿なのであるから、それを病気以外の形であらわせば、病気をあらわす必要がなく消えるのである。
- () 病気以外の形にあらわす一番よい方法は、その悪想念を思い出さないように、楽しいことばかりを考えておれば良いのである。